

令和3年度 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 4 月 5 日

事業所名 児童発達支援センターあさひ学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			基準より多く配置しているが、休みが重なった時など、もう少し人がいると安心。お休みの調整などを行うよう努めていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		建物の構造で行いにくい部分があるが、工夫しながら必要に応じて整えていきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	清掃や修繕などを少しずつ行っている。バスや室内などの消毒などを行いつつ行っている。	テラスの床などが古くなってきている。必要に応じて安全に過ごせるように修繕を行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	行事や事業所評価など振り返りなど共有できるように回覧している。	行事以外では、広く職員が参加できていない部分もある。事前に書面で意見を出してもらおうなど、よりたくさんの方の考えを聞く方法を実施していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後も第三者委員会の方に保護者からの評価などを伝え、意見をいただく機会を設けていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		リモート研修などで参加できるようにしている。	もう少し研修に参加する機会があるとよい。リモート研修になった場合、研修を受ける部屋を確保が難しい時がある為、空いている部屋を使うなど取り組んでいきたい。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもへの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			より子どもの状態にあったアセスメントの方法を見つけられるように、引き続き、見直ししながら検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	日々の記録ファイルと一緒に計画書をのせておくことで、意識しながら行えるようにしている。		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日常の活動では十分に行えない時もある。日々の振り返りと共に、活動についても話すように努めていく。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々の中では、丁寧に行えていないこともある。口頭で確認していることが多い。子どもの記録を行う時など話しやすい環境がある。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	記録の記入方法については、検討しながら工夫している。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		新型コロナウイルスの感染状況等もあり、電話やZOOMなどで実施した。事前に書類などを作成し、渡してから話すことができた。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	学校の状況や仕組み、福祉との違いなどについての研修なども職員に対して行うようにしている。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	今年度もコロナウイルスの関係があり、実施することが難しかった。	感染症の様子を確認しながら、交流先と相談していく必要があると感じている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	参観日や面談、連絡帳などを通して、関わり方などを伝えられるようにしている。	ペアレントトレーニングという形で実施はできていないが、関わり方などを伝えられるように努めている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		参観日が減り、保護者会ができない状況があったが、役員の方が行えることを検討し、実施された。今後も状況に合わせて検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	手紙など、わかりやすくお知らせできるように見直しを行っている。	面談等でもわかりやすい伝え方などを引き続き、行えるように職員のスキルの向上に努めていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域の人と参加する行事等が中止になり、外部の人の受けれが行えない状況があった。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	訓練の実施をしたり、保護者へ練習のメールを送るなどしてお知らせを行った。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		様々な状況を想定し、見直しを行いながら、必要な訓練を計画していく。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	入園前のアセスメントや書類に記入してもらうようにしている。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギー検査を行い、主治医に相談していただき、保護者の承諾の元に行っている。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	作成したものは回覧するようにしている。	事故簿は記入する習慣があるが、ヒヤリハットは、記入する習慣がない。記録に残せるように努めていく。

46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	年に1回、権利擁護を含めた研修を行ったり、対応について話す機会を設けている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		